

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	京都大学	拠点番号	E10
申請分野	学際・複合・新領域		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	世界を先導する総合的地域研究拠点の形成 ：フィールド・ステーションを活用した教育・研究体制の推進 Aiming for COE of Integrated Area Studies		
研究分野及びキーワード	〈研究分野： 地域研究 〉 (東南アジア)(南アジア)(西アジア)(アフリカ)(地域間比較研究)		
専攻等名	アジア・アフリカ地域研究研究科(東南アジア地域研究専攻・アフリカ地域研究専攻)・ 東南アジア研究センター		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 加藤 剛 教授 他 24名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成16年1月現在)を抜粋

<p>＜本拠点がカバーする学問分野について＞ アジア・アフリカ諸地域を対象とした地域研究</p>
<p>＜本拠点の特色及びその目的等＞ 本計画は、京都大学におけるアジア・アフリカ地域に関する長年の臨地研究の蓄積を踏まえて先端的な地域研究を推進させ、そこに大学院教育を有効に組み込むことにより世界を先導する総合的地域研究・教育の拠点形成を目指す。グローバル化のもと、地域社会と地球社会との接点が拡大・多様化するなかで、環境問題や南北問題等に見られるように、〈世界〉と〈地域〉の間の相克が先鋭化しつつある。これら現代世界を取り巻く諸問題の多くは、社会と自然が絡み合う複合的な問題群であるが、これまでは社会科学と自然科学に分けて対処しようとしてきた。こうした状況のなかで、真に持続可能な地球社会の発展の方向性を打ち出し、アジア・アフリカを含む諸地域の自立と世界の共存、さらには自然と人間の共生を可能にする新たな秩序を構想するうえで、生態、社会、文化が歴史的に交差する場である〈地域〉に関する文理融合的な知の蓄積が急務であり、そのための研究・教育拠点の形成が不可欠である。</p>
<p>＜COEを目指すユニーク性＞ 地域研究を標榜する世界の研究機関としては、連合王国のSOAS(ロンドン)やオランダのCNWS(ライデン)などがあるが、それらの多くは歴史学・政治学・経済学・社会学・人類学などの人文社会科学系が中心であり、本拠点のように文理融合的アプローチにより、地域間比較をも企図した総合的地域研究(Integrated Area Studies, 略称IAS)を推進するところはきわめて少ない。また、本拠点は、フィールドワークを重視しながら、基礎研究と実践的関心の融合を図ること、先端的な研究と現場における教育との融合を目指すものとしても、きわめてユニークである。</p>
<p>＜本拠点のCOEとしての重要性・発展性＞ 本拠点は、アジア・アフリカ地域のフィールド・ステーション(FS)を核として、文理融合的なアプローチ、教育と研究の融合、基礎研究と実践的関心の結合、アジア・アフリカの地域間比較などを柱とする総合的地域研究を推進し、統一テーマ「地球・地域・人間の共生」のもとで、〈地域〉に関する新しい〈知〉の創出を目指すものである。同時に、地域研究に関する多元的情報の収集・整理・発信、および国内外の研究機関とのネットワーク形成のために「地域研究統合情報化センター」を設立し、これらの活動を支援する。FS及び地域研究統合情報化センターの機能を統合することによって、世界を先導する総合的地域研究拠点の形成を実現させる。</p>
<p>＜本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FSおよび地域研究統合情報化センターを核とした総合的地域研究および教育の体制が確立する。 ・フィールドワークを通じた研究・教育が体系化され、自らが収集した第一次資料にもとづく独創的研究が生まれる。 ・FSを拠点とするフィールドワークと地域研究統合情報化センターの情報・ネットワーク機能を統合した、地域間比較や文理融合的アプローチなどの、新しい総合的地域研究が推進される。 ・環境問題や開発などの切実な問題に対して、地域に関する深い理解をもとにした実践的研究が展開される。 <p>なお、本計画終了後も、FSの機能を引き続き競争的資金等によって維持するが、いくつかのFSは、その機能を現地移管する等して、より広い範囲の研究者・学生の利用に資する。地域研究統合情報化センターは、「京都大学地域研究ネットワーク」及び「地域研究機構」の核として広範囲な活動拠点となることを目指す。</p>
<p>＜背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等＞ これまで地域研究の中心であったアメリカなどは、国家戦略の変化にともない、地域研究を縮小している。そのため、アジアにおける地域研究の拠点形成と研究・教育のネットワーク化は、これからのアジア、アフリカを考える上できわめて重要である。また国内外の多くの地域研究機関による研究は人文社会科学分野が中心であり、地域の全体像を把握するための文理融合的なアプローチはきわめて不十分である。本計画の成果として、地域研究における研究・教育の高度化や文理融合の促進をはじめ、開発援助、自然保護、民族紛争などアジア・アフリカ地域が抱える多様な問題に総合的な観点から柔軟に対応しうる地域の専門家の養成や、これらの問題に対する地域研究の知見の社会的還元などが期待される。</p>

機 関 名	京都大学	拠点番号	E 1 0
拠点のプログラム名称	世界を先導する総合的・地域研究拠点の形成 (フィールド・ステーションを活用した教育・研究体制の推進)		

◇ 21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される。

(コメント)

実績のあるフィールド・ステーション構築をさらに進めており、今後の発展も期待できる。

しかし、各地のフィールド・ステーション構築により、いかなる研究を飛躍的に進めようとするのか、言い替えれば、野外調査研究そのものの原理を高めようとするのかは明示的でない。また、「文理融合」の具体的な姿、アジアとアフリカという異なる地域間の接点をどこに見出すのか、などといった問題点も、現在までのところ明白ではない。フィールド・ステーション構築のためにも、これらに対する事前あるいはその過程における方法論の確立が必須であり、このような点について、関係者の一層の努力が必要である。